

## 全体授業研究会④(国際交流教室)振り返りよ!



平成26年11月17日  
白島小学校 研修部

### 1 支援とその方法

- ニ宮先生から、学級指導で大切なことが学べてよかったです。
- 普段から、言葉の(意味の)違いを大切に指導していかなければならないと思いました。
- 普段、お世話になっている国際教室の様子を見せてもらうことができよかったです。自分の日本語の使い方や聞き取り方について、改めて考える機会でもありました。
- 言葉の学習以外に、個々の家庭事情も理解し、学校生活がスムーズに送れるよう、配慮していただいていることも、子どもたちの安心につながっていると思います。
- この4月から、日本語指導が国として制度化されたことを初めて知った。
- 昨年度、国際交流教室で交流している児童がいたので、今日の授業も理解できる場所があった。高学年になると、文化の違いを認め合うことや保護者の考えとのずれに課題があった。進路を決めるとき、国際の先生も相談にのってくださったり、間に入ってくださったりして支援して下さった。「学級で何ができるか」が大きな課題だと思う。

→重要な指摘だと思います。学校体制における教室や指導の位置付けの部分と、無条件に職員全体ですべての子どもを支援していくという部分で、しっかりと考える必要のある課題だと思います。

- 今回、普段あまり知る機会のない日本語教室について学ぶことができた。木村先生も話の中で何度も触れられていたが、語彙力との関係で、なかなかアウトプットできないことが授業中に何度かあった。話そうとする姿は、その子のがんばった結晶であり、成長の証だと思う。本人のイメージをそのまま表現することができるようにするために、絵で表現させるなど、工夫を考えていきたい。
- 国際交流教室の児童にとっては、日本語の定着だけでなく、先生の笑顔に迎えられるあたたかい場所、一人一人が大切にされる場所であると感じました。自分の教室を振り返ったとき、学習についていく力が十分でない子どもに気付きます。その子は、どこでつまづいているのか、どのような支援が適切であるかを考えていきたいと思いました。
- 状況を視覚的にとらえやすい工夫がしてあり、イメージを持って言葉を理解していけると思いました。いつも、本当に丁寧な指導ありがとうございます。自然に身に付く内容を指導する難しさを感じました。「あります」、「います」の振り返りの後に、魚焼きと水そうの絵は、外した方がよかったですかなと感じました。文法的には、おかしくないけど、「机の上に、体操服と魚焼きがあります。」は、違和感がありました。動物園に水そう…そこが生活性につながると思いました。

### 2 授業づくり

- 資料の提示など、イメージしやすいよう工夫することなど、通常の学級でも意識して取り入れていこうと思いました。
- 語彙の少なさは、子ども全般に感じる人が多いので、国際の先生の方法を教えていただくなど、いっしょにいい方法を見つけていけるといいなと思いました。
- 日本語学習の専門として、お二人は、素晴らしいと思います。同じ教諭として感じたことは、「授業の筋」の問題です。事前の指導案検討のときにも、少しお話させていただいたと思うのですが、今回、  
1 「います」、「あります」と「と」、「や」の二つを追いかけていたこと。

2 多々ある「と」と「や」の使い分けの中から今回教えるべきゴール(ねらいと内容)が明確でなかったこと。

の2点のために、スムーズに流れにくかったのではと思います。ゴールをもっと明確にすることで、そこに向けて「教え込む」のか「導き出す」のか、その方法がを見つけやすくなります。

### 3 研修会・協議会のあり方

- 日頃から、私自身も悩んだり、考えたりすることが多い部分ではありますが、やはり、大切にしていかななくてはならないと改めて思いました。こういった全体研修会を通して、経験年数に関わらず、再度考えさせてもらえるのでありがたいです。

→これが高まり合う集団の条件でしょう。以前、「教師は、年齢ではない。経験でもない。いかに学ぼうとする力を持ち、プロとして働くかが問題である。」という言葉聞いたことがあります。なかなか変わらないのが、大人かもしれません。しかし、私は、伸び続けるモチベーションと力を持ち続けたいいつも思っています。

- 交流学級での学び合いの様子や課題などがあれば知りたかった。

### 4 その他

- 日本語を普段から話している私たちには、細かいニュアンスの違いを考えることがなかったので、大変勉強になりました。
- 普段、何気なく使っていることを教える難しさを感じました。国際の子どもかかわる機会が増やせたらと思います。



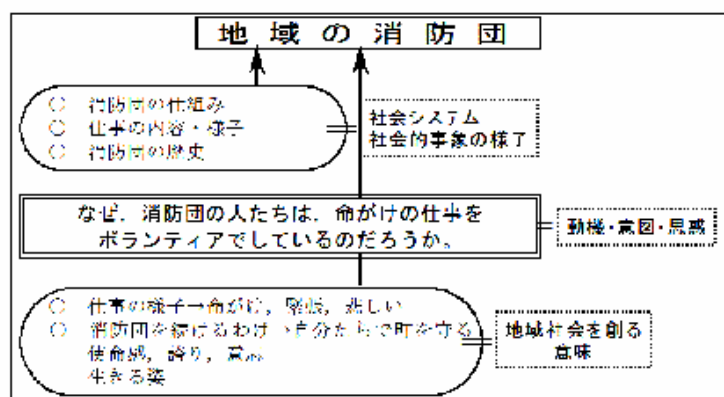
ついこの間まで、冬物を着ては暑いと、着るものに困っていましたが、一気に寒さがやってきて、今は、完全に冬支度です。皆さん、急激な気候の変化で、体調を崩されていないでしょうか。

後期が始まって、1か月余りが過ぎました。第2回教科研公開授業から始まり、一つずつ行事・取組が終わっていくのを感じています。こうやって、新年、年度末…と、あっという間に過ぎていくのでしょうか。

さて、今回は、国際交流教室(「国際」)の提審でした。私の学年には、お世話になってる子どもがおらず、谷岡先生は、いつも物霽かですし、木村先生は、いつもお忙しそうで、「国際」の子どもの実態や学習の様子は、よく分からないというのが正直なところでした。朴さん兄妹の和気藹々とした雰囲気の中で、一生懸命に言葉を紡ぎながら学習する姿、谷岡先生の穏やかな表情で二人にかかわっていかれる姿に、思わず笑みがこぼれました。「国際」の子どもたちが言葉や仲間とのかかわりに不安を持ったとき、きっと、やさしくサポートされているのでしょう。

本時は、限定的な「○と△」と、例示する「○や△」との意味の違いを理解することがねらいでした。そこで、『キリンとクマ』、『キリンやクマ』には、どんな違いがあるのだろうか。」という問いと「ものの数に着目して、場面の様子を対比し、意味の違いを見つける。」という思考の方法を設定しました。しかし、場面の状況を対比して意味の違いを思考する場が設定されず、子どもの曖昧な認識のまま演習に入ったため、正しい理解ができませんでした。協議会でも発言があったように、「○と△」、「○や△」の場面を図や絵で提示し、ものの種類に着目した場面の違いから、意味の違いを見つける活動が必要だったのでしょう。これが、まさに、思考の仕方を活動に落とすことです。

この授業を見て、日本語という言語をスキルではなく、意味として教えられていることを感じました。私たちの教科学習において、いや、ものを考える上で、意味や価値を問うことは、大切なことではないでしょうか。例えば、3年の「安全な暮らしを守る」において、地域の消防団について学習する場合で考えてみます。消防団の仕組みや仕事の内容・様子などを調べた上で、「なぜ、消防団の人たちは、命がけの仕事ボランティアをしているのだろうか。」と問うことによって、消防団を続ける動機・意図を考えることとなります。つまり、様子(現象)として消防団について知った上で、消防団を続ける動機・意



〈資料1:社会科3年「安全な暮らしを守る」の場合〉

図を問い、使命感、誇りを持って町を守ろうとする人たちの生きる姿と消防団を通して、自分たちにできる役割を果たして地域社会にかかわり、創ろうとしていることを意味付け、価値付けることになるのです。このことを図で表すと、上の〈資料1〉になります。

日常生活において、表面の現象や事実だけでは、見えるものだけしか見えません。「それは、どういうことか、どんなものといえるか。」と、意味付けることによって、ただの行為や現象ではなく、そこに意味や価値が生まれ、自らの行動に反映されるのです。学習で言えば、言葉やスキルを覚えるのではなく、それらの仕組みや意味が分かることによって、単なる知識から、生きてはたらく認識になるのだと思います。

私は、子どもによく、「文章を書く目的は、意味付けること。」と言います。現象や事実の羅列から、それらを意味付けられる力を育てていきたいと思ひます。

1月30日の自主公開研が近づいてきました。授業提案される先生方は、新たな教材開発を進められていることでしょう。さらに、先生方には、先般からお伝えしているように、細部にわたる運営をお願いしています。その上、研究紀要の執筆…と、無理難題ばかりで、恐縮しています。今回の会も、学校が一つになって、催せたと言える会になりますよう、お力添え、よろしくお願ひいたします。



また、せっかくの会です。私は、一人でも多くの参会者に来ていただけることが何よりうれしいことだと思います。一人お二人をお誘ひいただければ、60人以上増えることになります。そうして、一人でも多く集まっていたくださいましよう。

〔 註 〕

拙稿「意思決定場面の『心理』を踏まえた社会科学習指導過程」全国社会科教育学会『社会科研究』第49号，1998